

令和4年度 第1回小松市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和4年5月26日(木)
開会 午後10時30分 閉会 午後11時30分
- 2 会 場 小松市役所3階会議室
- 3 出席者 小松市長 宮橋 勝栄(議長)
小松市教育委員会
教 育 長 石黒 和彦
委 員 吉原 慎吾
委 員 中惣 恭子
委 員 勝木 克子
- (事務局関係)
- | | |
|-----------------------|-------|
| 総合政策部長 | 藤井 勝司 |
| 総合政策部 総合政策課長 | 中谷 幸嗣 |
| 総合政策部 総合政策課主幹 | 井出 称子 |
| 総合政策部 総合政策課事務員 | 二木 有希 |
| 教育委員会事務局 教育次長 | 林 政憲 |
| 教育委員会事務局 教育次長(社会教育担当) | 横山 昭博 |
| 教育委員会事務局 シニアマネージャー | 中田 一宏 |
| 教育委員会事務局 教育庶務課長 | 東谷 勝美 |
| 教育委員会事務局 学校教育課長 | 岩脇 司 |
| 教育委員会事務局 教育研究センター所長 | 表 久美子 |
| 教育委員会事務局 生涯学習課長 | 坂下 義視 |
| 教育委員会事務局 ICTインストラクター | 3名 |
- 4 討議事項 ・GIGA スクールこまつモデル ～効果的な ICT 活用をめざして～

5 会議の経過及び発言

○開 会

○宮橋市長あいさつ

- ・まさに教育行政の変革期である今、学びの環境づくりは非常に重要だと捉えており、本市においても安全安心な学びの環境づくりを集中的、計画的に進めている。
- ・GIGA スクール構想は今後の教育の大きなテーマであり、学力だけではなく様々な能力を子どもたちから引き出す。GIGA スクールこまつモデルを力強く推進していくために、委員の皆様から意見を頂きたい。

○討議事項

・GIGA スクールこまつモデル ～効果的な ICT 活用をめざして～

〈議長〉

- ・議題「GIGA スクールこまつモデル ～効果的な ICT 活用をめざして～」について説明をお願いしたい。

〈GIGA スクール構想の体系について 石黒教育長より説明〉

- ・教育行政の変化を捉えるとともに将来を見据えて教育行政の充実を図っていくため、教育体系をまとめている。
- ・2020 年に GIGA スクール構想の方針が国から出された背景は、子どもたちが今後、地球規模の課題を解決していく力を身に付けさせることが発端である。タブレット端末をただ使うだけではなくどう活用していくかが重要。
- ・人への投資を重視する学校教育の改革が進められており、今が大きな教育の転換期であると言える。
- ・様々な課題と直面する未来社会の中で、その時々最適な解を探っていく探究的な姿勢を子どもたちにもたせたいと考える。どれだけ深い学びを設定できるかが学校教育の大きなテーマであり、GIGA スクール構想も大きな役割を担っている。
- ・「学びが面白い」4つの要素は、「主体的・対話的で深い学び」「学びを創る教員研修」「元気な教職員」「多様な学びの場の設定」と考える。
- ・今後、新しいハードやソフトが開発され、GIGA スクール構想も発展していくと思うが、子どもとたちのために充実したものにしていきたい。

〈教育研究センター 表所長（パワーポイント資料に基づき説明）〉

- ・GIGA スクール構想は、これまでの教育実践の蓄積に ICT を掛け合わせることで、学習活動の一層の充実と、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図り、令和時代の学びのスタンダードとするもの。
- ・小松市が目指すのは、ICT の効果的な活用により、子どもの学びの深化と授業の質的改革を図り、子どもたちが未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に育成する授業を提供すること。
- ・これまで、プロジェクトチームによる学習用端末の活用を進めるとともに、ICT を効果的に活用した授業実践と授業公開により、こまつモデルを推進してきた。
- ・R3 年 9 月からは、AI 型学習コンテンツ「Qubena（キュベナ）」を小学校 4 年生から中学校 1 年生まで導入し、学校や家庭でのオンライン学習にも活用している。
- ・今年 3 月に実施した授業実践アンケートの結果では、児童生徒から、学習用端末を使用することで意欲的に取り組むことができる、学んだことが理解しやすくなるといった肯定的な回答が多かった。このことから子どもたちの学習の中に ICT が定着しつつあることが伺える。
- ・教員へのアンケート結果から、学習用端末の活用に対し苦手だと感じる教員もいることは課題の一つであると捉えており、教員向けのサポートや研修を充実していきたい。
- ・Qubena の活用については、教員が意図的に選んだ問題を生徒に配信する「ワークブッ

ク」の活用が多いのが小松市の特徴であり、教員が目的をもって問題を配信していると言える。

- ・今年度の取組みとしては、新学習指導要領に基づき、主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善を柱としており、学習用端末の効果的な活用により、主体的に学び、他者と協働しコミュニケーション能力を育む新しい学びのスタイルを確立することを目指す。
- ・今後も、ネットワークでつながって学べることや、個々の学びを把握し効果的に指導ができること、また全員で協働して学べるといった、ICTを活用する良さを、教員と共し更なる活用の促進を図っていきたい。

<ICT インストラクターによる AI 型学習コンテンツ Qubena の体験>

<議長>

- ・委員の皆さんからご感想や今後期待することなどについて発言をいただきたい。

<吉原委員>

- ・アンケート結果からも得手・不得手な先生がいると思うが、ICT 化は先生の業務の負担を増やすことになっているのか。

<表所長>

- ・すべての学校で ICT サポート訪問を実施しており、先生や子供たちへの授業支援、サポート、相談を行っている。また、使い方の動画提供や、オンラインでの研修も行っているが、教科等によっては導入が難しい单元もある。

<勝木委員>

- ・Qubena を体験してみて、間違えた問題を振り返ることができるなど個々の習熟度に応じて学習を進められる点が素晴らしいと思う。字の判別の精度はどうか。

<表所長>

- ・字の判別について、全国からの声を集めて改善が図られており徐々に精度は上がっている。

<中惣委員>

- ・間違えても解説があり楽しく学べた。操作に慣れると、より効果が出てくると思う。先生方にとって資料を作る負担が減るのではないか。
- ・ICT 機器による健康面での影響はどうか。

<石黒教育長>

- ・文科省の調査では通常の範囲内の利用であれば視力に影響がないという結果がある。

<勝木委員>

- ・教員や保護者の世代にとっては、セキュリティやモラルといった面について教えることに不安を抱えている人もいるかもしれないが、子どもたちには、機器の使い方だけではなく、是非セキュリティやモラルの面も含めて教育して行ってほしい。

<表所長>

- ・情報モラルを含む情報活用能力は、新学習指導要領において学習の基盤となる資質能力の一つとして位置付けられており、教科横断的に、授業の中で折に触れてルールやモラルを子どもたちに伝えている。情報モラルについては全国的にも課題となっており、改めて取り組んでいかないといけない。小中学生サミットで、子どもたち同士で考えていく機会も大切にしていく。

<吉原委員>

- ・問題の解答などのデータを活用、分析することにより、小松市の児童生徒の学習の強み、弱みなども分かってくるのではないかな。

<表所長>

- ・データの活用の仕方については今後検討していきたい。

<議長>

- ・例えば子どもたちの机の大きさなど、環境面での課題はや意見はあるか。狭いという声がある机の天版を一時的に大きくできるような便利なものがあれば検討、整理してみしてほしい。

以上

○閉 会